

4. 学会動向

学会動向

フォーラム名

e-Learning World Expo & Conference 2007

<http://www.elw.jp/>

報告者：龍 昌治

<開催概要>

e-Learning WORLD 2007 実行委員会，特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアムが主催する，e-Learning に関する総合展示会である。会員企業による大規模なシステム展示と同時に，関連技術の講演セッションやフォーラムなどが行われる。

開催： 2007年8月1日（水）-8月3日（金）

場所： 東京ビッグサイト

大規模な展示会とフォーラムのなかで，大学などの教育機関向け展示と，e-Learning 教材の標準規格である SCORM 関連のフォーラムについて報告する。

・展示セッション

昨年と比べて，大手メーカーの展示が減ったものの，総入場者は3日間で2万人を越え，特に企業向けの教育システムの展示ブースには，多くの参加者がみられた。情報セキュリティ関連の社員教育システムのほか，採用内定者への支援システムなどが注目される。Web ベースの会議システムのほか，企業向けの大規模なシステム製品が目立つ。

大学教育向けには，若干の教材コンテンツなどが見られたが，大きな市場にはなりえないことが見て取れる。昨年から特設された，文部科学省の現代 GP 採択プログラム紹介など大学関係の展示が目を引く。いずれもポスターセッション程度の小規模な展示ながら，工夫を凝らした取り組みは参考になる事例が多い。なかでも東京理科大学長万部校の全寮制による教養教育プログラムでは，自然環境を生かしたカリキュラムと，PSP（携帯ゲーム機）への動画配信による実験手順の視聴システムが注目された。

SCORM などの互換性を考慮したシステムよりも，大学にとっては独自性を強調した特徴あるコンテンツが魅力的ともいえる。

・ SCORM 規格の標準化フォーラム

日立 IA の事例をもとに，SCORM 教材の構成方法の詳細な解説と，実装のサンプルが示された。引き続き，NIME の仲林氏より，アセッサの役割，現在普及している SCORM1.2 と 2004 の違いなどが，アセッサ関連資料，「SCORM 2004 解説書」などをもとに示された。

SCORM の実装に利用できる，オープンソースツールとして，「RELOAD エディタ 2004」の操作画面の紹介などがあり，簡単な操作で SCORM 教材コンテンツが作成できることが実演された。質疑では，SCORM の汎用性や移植性など，互換性にかかわる問題点が多く交わされた。